



平成29年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年11月8日

上場会社名 日本マクドナルドホールディングス株式会社

上場取引所 東

コード番号 2702 URL <http://www.mcd-holdings.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼最高経営責任者(CEO) (氏名) サラ L. カサノバ

問合せ先責任者(役職名) 執行役員 IR統括責任者 (氏名) 中 澤 啓 二

TEL 03-6911-6000

四半期報告書提出予定日 平成29年11月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年12月期第3四半期の連結業績(平成29年1月1日～平成29年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第3四半期	187,106	13.2	15,085	296.4	15,761	357.4	15,431	380.8
28年12月期第3四半期	165,252	20.1	3,805		3,445		3,209	

(注)包括利益 29年12月期第3四半期 15,068百万円 (399.5%) 28年12月期第3四半期 3,016百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期第3四半期	116.07	
28年12月期第3四半期	24.14	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年12月期第3四半期	183,792	121,084	65.9
28年12月期	180,499	110,214	60.9

(参考)自己資本 29年12月期第3四半期 121,084百万円 28年12月期 110,000百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年12月期		0.00		30.00	30.00
29年12月期		0.00			
29年12月期(予想)				30.00	30.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年12月期の連結業績予想(平成29年1月1日～平成29年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	248,500	9.6	16,500	138.1	17,500	164.6	20,000	272.7	150.42

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

29年12月期3Q	132,960,000 株	28年12月期	132,960,000 株
-----------	---------------	---------	---------------

期末自己株式数

29年12月期3Q	869 株	28年12月期	869 株
-----------	-------	---------	-------

期中平均株式数(四半期累計)

29年12月期3Q	132,959,131 株	28年12月期3Q	132,959,131 株
-----------	---------------	-----------	---------------

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(経営成績に関する定性的情報)

当第3四半期連結累計期間は、お客様の声を伺い、お客様のご期待に沿った店舗体験のご提供に注力した様々な活動の相乗効果によりビジネスは着実に成長を続けており、既存店売上高は13.1%の増加となりました。システムワイドセールスは3,614億65百万円(対前年同期比405億73百万円増加)、売上高は1,871億6百万円(対前年同期比218億54百万円増加)、経常利益は157億61百万円(対前年同期比123億15百万円増加)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、特別利益に業務協定合意金24億75百万円を計上したこと等により、154億31百万円(対前年同期比122億22百万円増加)となりました。

(注) 1. 既存店売上高とは、少なくとも13ヶ月以上開店している店舗の合計売上高です。

2. システムワイドセールスとは、直営店舗とフランチャイズ店舗の合計売上高であり、四半期連結損益計算書に記載されている売上高と一致しません。

3. 当社グループの事業はハンバーガーレストラン事業単一であるため、セグメント情報に関連付けた記載を行っておりません。

(事業戦略に関する定性的情報)

平成29年度は、食の品質と安全に関する継続した取り組みとともに、これまで注力してきたお客様に最も重要な3つの柱、「メニュー及びバリュー」「お客様の店舗体験」「マクドナルドブランド」への投資を継続・強化し、さらに、①「おいしさの向上」、②「利便性の向上」、③「人材への投資」の3つの分野において革新的な取り組みにチャレンジし、お客様の店舗体験の更なる向上を目指しています。

当第3四半期連結累計期間は、以下の活動を実施しました。

①「おいしさの向上」

レギュラー商品のおいしさに徹底的にこだわる「おいしさ向上宣言」を行い、「プレミアムローストコーヒー」のリニューアルや、「おてごろマック」の「しょうが焼きバーガー(ニックネーム:ヤッキー)」、日本のお客様の好みに合わせて開発した3種の本格肉厚ビーフバーガー「グラン」を新レギュラーメニューとして発売し、いずれもお客様から大変ご好評をいただいております。

定番の期間限定商品としては、「チキンタツタ」と併せて新作「チキンタルタ」、「月見バーガー」に加えて新作「月食バーガー」を販売し、新しいおいしさをお楽しみいただきました。

また、スイーツ商品と人気ブランドのコラボレーションも大きな話題となりました。森永製菓株式会社とタッグを組んだ「マックフルーリー 森永ミルクキャラメル」、アサヒ飲料株式会社の「カルピス」と連携して「マックシェイク×カルピス®」、有楽製菓株式会社の「ブラックサンダー」と連携して「マックフルーリー ブラックサンダー」、株式会社 明治の「チェルシー」と連携して「マックシェイク チェルシー」を期間限定で販売しました。お客様にも一緒に参加して楽しんでいただく様々なキャンペーンでは、お客様からの人気投票によりマクドナルドの日本一のバーガーを決める「第1回マクドナルド総選挙」や、地域によって異なるマクドナルドの“愛称”「マック」「マクド」を、期間限定販売の「東京ローストビーフバーガー」と「大阪ビーフカツバーガー」のおいしさによって決定する「おいしさ対決キャンペーン」等を実施し、多くのお客様にお楽しみいただきました。

②「利便性の向上」

最高の店舗体験と目に見える変化を一人でも多くのお客様に感じていただくために、平成30年度末までに90%以上の店舗をモダン化する計画を進めており、既存店舗の改装にリソースを優先的に振り向けています。当第3四半期連結累計期間は、フードコートやモールにある店舗を含めて308店舗の改装と5店舗のリビルド(建替え)を実施しました。

また、お客様の利便性を高め、店舗体験をさらに向上していく取り組みとして、株式会社NTTドコモの「dポイント」、楽天株式会社の「楽天スーパーポイント」に加え、「nanaco」、「suica」等の電子マネーが全店舗(一部特殊立地店舗を除く)で利用可能となりました。

さらに、6月よりUber社が提供するフードデリバリーサービス「UberEATS」を導入し、当第3四半期連結会計期間末時点で東京都内の42店舗で利用可能です。全国約200店舗で実施している宅配サービス「マックデリバリー」とともに、デリバリーサービスの拡充にも取り組んでいます。

区分	前連結会計 年度末	新規出店	閉店	区分移行		当第3四半期 連結会計期間末
				増加	減少	
直営店舗数	939店	3	△7	—	△7	928店
フランチャイズ店舗数	1,972店	2	△12	7	—	1,969店
合計店舗数	2,911店	5	△19	7	△7	2,897店

③「人材への投資」

マクドナルドビジネスの大切な分野である「人材」への投資も積極的に進めています。店舗のクルー（アルバイト）の方々が働きやすい環境作りを進めるとともに、採用では、今年初めて春と秋に全国の店舗で一斉に「クルー体験会」を実施し、多くの方々にマクドナルドの仕事を体験いただき採用にも繋がりました。また、クルーのトレーニングマテリアルをより使いやすくなるよう改訂を行い、質の高いトレーニングを短い時間で実施できるようにしました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は455億77百万円となり、前連結会計年度末に比べ44億3百万円の増加となりました。これは、流動資産のその他が34億49百万円増加、現金及び預金が6億58百万円増加したことが主な要因です。

固定資産は1,382億14百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億10百万円の減少となりました。これは、敷金及び保証金が15億9百万円減少、建物及び構築物が9億90百万円増加、長期繰延営業債権が25億33百万円の減少したことが主な要因です。

流動負債は329億82百万円となり、前連結会計年度末に比べ68億20百万円の減少となりました。これは未払金が57億54百万円減少、未払消費税等が11億42百万円減少したことが主な要因です。

固定負債は297億25百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億56百万円の減少となりました。これは長期借入金金が18億75百万円減少、長期リース債務が5億21百万円減少、賞与引当金が12億7百万円増加したことが主な要因です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年12月期の通期の業績予想につきましては、平成29年8月9日に公表いたしました業績予想からの変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,244	21,903
売掛金	10,558	10,304
1年内回収予定の長期繰延営業債権	3,336	3,251
原材料及び貯蔵品	999	990
繰延税金資産	597	597
その他	5,574	9,024
貸倒引当金	△1,136	△492
流動資産合計	41,174	45,577
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	49,548	50,539
機械及び装置(純額)	4,195	4,415
工具、器具及び備品(純額)	2,703	3,687
土地	17,325	17,325
リース資産(純額)	1,987	1,453
建設仮勘定	1,118	307
有形固定資産合計	76,878	77,728
無形固定資産		
のれん	907	626
ソフトウェア	6,118	6,725
その他	694	694
無形固定資産合計	7,720	8,045
投資その他の資産		
投資有価証券	56	56
長期貸付金	9	9
長期繰延営業債権	6,049	3,515
退職給付に係る資産	7,328	6,997
繰延税金資産	124	289
敷金及び保証金	37,519	36,010
その他	6,286	6,715
貸倒引当金	△2,647	△1,154
投資その他の資産合計	54,725	52,439
固定資産合計	139,324	138,214
資産合計	180,499	183,792

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	844	23
1年内返済予定の長期借入金	2,500	2,500
リース債務	1,152	889
未払金	20,893	15,139
未払費用	4,918	5,736
未払法人税等	1,112	2,199
未払消費税等	3,299	2,156
賞与引当金	2,307	2,002
たな卸資産処分損失引当金	261	-
その他	2,512	2,335
流動負債合計	39,802	32,982
固定負債		
長期借入金	20,625	18,750
リース債務	1,486	964
繰延税金負債	1,342	1,176
再評価に係る繰延税金負債	291	291
賞与引当金	435	1,643
役員賞与引当金	126	655
役員退職慰労引当金	78	99
退職給付に係る負債	1,424	1,447
資産除去債務	4,352	4,373
その他	319	323
固定負債合計	30,482	29,725
負債合計	70,284	62,707
純資産の部		
株主資本		
資本金	24,113	24,113
資本剰余金	42,124	42,124
利益剰余金	46,333	57,776
自己株式	△1	△1
株主資本合計	112,570	124,013
その他の包括利益累計額		
土地再評価差額金	△4,242	△4,242
退職給付に係る調整累計額	1,672	1,313
その他の包括利益累計額合計	△2,569	△2,928
非支配株主持分	214	-
純資産合計	110,214	121,084
負債純資産合計	180,499	183,792

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)
売上高	165,252	187,106
売上原価	143,446	153,125
売上総利益	21,805	33,981
販売費及び一般管理費	17,999	18,896
営業利益	3,805	15,085
営業外収益		
受取利息	75	166
貸倒引当金戻入額	-	612
受取補償金	14	34
受取保険金	73	111
受取設備負担金	-	420
その他	207	153
営業外収益合計	371	1,500
営業外費用		
支払利息	189	130
貸倒引当金繰入額	99	-
店舗用固定資産除却損	279	562
その他	162	130
営業外費用合計	730	823
経常利益	3,445	15,761
特別利益		
店舗閉鎖損失引当金戻入額	478	-
業務協定合意金	-	2,475
特別利益合計	478	2,475
特別損失		
固定資産除却損	247	357
特別損失合計	247	357
税金等調整前四半期純利益	3,677	17,879
法人税等	466	2,452
四半期純利益	3,211	15,427
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	1	△4
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,209	15,431

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	3,211	15,427
その他の包括利益		
土地再評価差額金	19	-
退職給付に係る調整額	△214	△358
その他の包括利益合計	△194	△358
四半期包括利益	3,016	15,068
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,015	15,072
非支配株主に係る四半期包括利益	1	△4

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報)

当社グループの事業は、ハンバーガーレストラン事業単一であるため、セグメント情報の記載を省略しております。